

能樂  
神遊  
第四回公演

邯鄲

單

Noh

KANTAN  
'KAMIASOBI' The Fourth Stage

あらすじ

【松風】『立ち別れ 因幡の山の峰に生ふる 松とし聞かば今帰り来る』恋い慕う在原行平を思い、形見の松に舞い戯れる、海女乙女松風の靈。

【昆布壳】お供なしで出かけた大名は通りすがりの昆布壳を脅して、無理矢理に太刀持ちとしてお供をさせる。傲慢な大名だが昆布壳に太刀を持たせたのは失敗であった…。

【邯鄲】中国 蜀の青年廬生は、人生に悩み旅に出た。途中立ち寄った邯鄲の町で宿を借りる。宿の女主人が言うには昔、方士から授かった不思議な枕がある。この枕で一眠りすれば、その間に人生の栄耀榮華を見ることが出来るという。今の自分の悩みを解く一助にと廬生は寝台に上がり枕に伏す。夢の中で皇帝となった廬生は家来にかしづかれ、豪華な宮殿に住み、五十年の歳月を送ると思うや否や全てが消え失せ、そこは元の邯鄲の宿屋。女主人に粟の飯が炊けたと知らされ、眠りから覚める廬生。…「ああ、夢であったのか」飯が炊けるわずかな間に人生の栄耀榮華を目にして廬生にもう悩みはなかった。はかない人生を悟り得て、ひとり立ち去って行くのだった。

『邯鄲の夢』として名高い物語を、能特有の演出方法を駆使してできあがった名作。舞台空間と作り物(大道具)を巧みに用い、夢と現実・宿屋と宮殿という大きな要素を時間的・空間的に完璧に処理した演出が生きています。登場人物も多く音楽も抑揚に富んで、華やかな舞台の中に人生のはかなさを表すのが特徴です。

神遊 第四回公演をむかえて

若手能樂師5人が、能の伝統を守り、受け継ぎ、未来に伝えてゆこうと結成した神遊(かみあそび)。もっと能を身近に感じていただこうと一般劇場での上演や、入門講座なども試み、能に触れたことの少ない様々な世代の皆様に、観て、楽しんでいただくことができました。

第四回公演はシテ方観世流ご宗家をお迎えし、自らが能を学習し、更なる芸の修練をおこなう本公演です。結成1年目を迎えた神遊の舞台を、どうぞ存分にお楽しみ下さい。

平成10年9月5日[土] 開場 午後1時  
午後2時始まり 於 矢来能楽堂

正面指定席 6000円／脇正面指定席 5500円／自由席 5000円

チケットの申し込み：神遊 0422-47-3795／チケットぴあ 03-5237-9988  
お問い合わせ：神遊 0422-47-3795／矢来能楽堂 03-3268-7311

解説

観世元伯

まつかぜ  
舞離子 松風 戲之舞

シテ(松風の靈)	観世清和
笛	一増隆之
小鼓	宮増新一郎
大鼓	柿原弘和
地頭	関根祥人
地謡	浅見重好
地謡	上田公威
地謡	藤波重彦
地謡	味方 玄

こぶうり

狂言 昆布壳

シテ(昆布壳)	山本則直
アド(大名)	山本則孝

かんなん

能 邯鄲

シテ(廬生)	観世喜正
子方(舞童)	中森慈元
ワキ(勅使)	森 常好
アイ(宿の主)	山本泰太郎
笛	一増隆之
小鼓	宮増新一郎
大鼓	柿原弘和
太鼓	観世元伯
地頭	観世清和
地謡	関根祥人
地謡	浅見重好
地謡	上田公威
地謡	藤波重彦
地謡	味方 玄
地謡	奥川恒治
地謡	馬野正基
後見	観世喜之
後見	中森貫太



一増隆之  
Isso Takayuki



観世喜正  
Kanze Yoshimasa



柿原弘和  
Kakihara Hirokazu



宮増新一郎  
Miyamasu Shinichiro



観世元伯  
Kanze Motonori



東京都新宿区矢来町60 東西線練坂駅下車(矢来口より徒歩3分)